

創建

そうこん

2016・7・20 VOL. 51 NO. 2 (通巻160号)

巻頭言：濱田幸雄・1
平成29年度卒業研究テーマ・2～3
アーキテクトコース見学会・3
ダイワロイネットホテル現場見学会・4
卒業設計出展／卒業生コンペ佳作入選・5
新任紹介・6
学術論文・発表論文／教室ニュース・7
教職員名簿・8

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

この原稿の校正作業中に、イギリスのEU離脱決定の速報が流れた。国民的議論の末に、現状維持の結果が出るものとばかり思っていたので正直驚いた。イギリスの人口は2015年時点で推計6,470万人、2012年から2037年までの25年間に約960万人の人口が増えるという。この内訳は、540万人(57%)が自然増、残る43%は移民増と推定されている。さらに、自然増のうち29%は移民家族の出生によるものと推定されている。人口が増加することは国内総生産(GDP)の増加をもたらし、国内消費の増加も期待できる。現在の日本とは真逆の方向性である。日本の人口は2010年をピークに減少の一途をたどっている。特に問題なのは、このままの人口動態が推移すると2050年には生産年齢人口(15歳から64歳)の割合が51.5%と世界最低になるということである。EU離脱により移民の増加ペースが低下すると、人口増→GDP増→消費拡大→経済成長というイギリスのシナリオも怪しくなってくるのではないだろうか。

イギリス、いわゆるブリテン島はヨーロッパにおける最後の氷河期(ヴェルム氷河期)が終了して、世界が「気候最良期(Climatic Optimum)」を迎えたところ、今からおよそ6500～5500年前に海水水位の上昇に伴ってヨーロッパ大陸から切り離されて孤島となった。日本では縄文時代に相当する。これ以降、ヨーロッパ各地に森林が広がり、イギリスは栄華を極めることになる。日本においても、縄文時代は現在より海水面がかなり高かったといわれる。このことは、当時の貝塚が現在の海岸線より内陸で発見されることから判断できる。さらに時代が進み、800年から1000年ころまでは北半球全般が暖かくなり、高緯度まで人間

の活動範囲が拡大した。奈良時代は710年から始まるが、712年の古事記編纂、717年の遣唐使派遣などの実績を考えると、数百年前より穀物の収穫など順調だったことが推測される。日本はこれ以降、江戸小氷期に大飢饉が起こったりしたが、天候は比較的平穏なものだったといえる。特に、高度経済成長時代は、伊勢湾台風や新潟地震はあったがおどろくほど気候に恵まれ、大災害が少なかったために、奇跡が起こったと思われる。

ところが、最近は地球温暖化の時代を迎えているという。温暖化と言っただけで、地球の気温の上昇に人類が関与したのかどうかという議論が始まってしまう。確かに、長い

新時代の建築家

教授 濱田 幸雄

地球の歴史を見れば、最近の温暖化と似たような現象は何度も起きている。とはいえ、多くの研究者は人間活動の影響がないと言い切れないという立場をとっている。そこで考えなくてはならないこと、それは建設業は全産業が消費する50%の資源を消費し、全産業が排出する二酸化炭素のやはり50%を排出しているという現実である。建設業は災害への備えやインフラの老朽化対策など、社会から寄せられる期待が大きい。その建設業が二酸化炭素を大量に放出して、地球温暖化を招いてしまっただけでは本末転倒である。

先日、新聞の書評欄で次の文章に出会った。「人間は一人で生き残るのが難しく、高度な社会を形成し繁栄してきた。人間の脳には、他人に

共感したり他人のために何かをしたる『利他行動』の快感を判定する領域がある。これは美しいと感じる領域と同じだ」。脳科学者である中野信子氏の文章の一説である。利他行動を三省堂大辞林で調べると『自己には不利益になるが、集団内の他個体には利益を与えるような生物学的行動。働きアリなどの社会行動を行う昆虫や、一部の鳥類などに見られる警戒音の発生など』とある。人間には、ふとしたきっかけでこのような行動にでることが確かにある。同氏も指摘しているように、阪神・淡路大震災、東日本大震災を機に利他行動が促進され、ボランティア活動を通じて協力して集団を守る意識が高まったことも事実であろう。建築に携わるものには多くの知識や経験が要求される。それ以上に基本的な能力として、施主の立場に立って考えることができること、仕事の依頼主を幸せにしてあげよう、さらに社会をよくしようと考えられる能力が絶対必要である。また、建物は基本的に美しくなければならない。このように考えると、建築に従事するものは、利他行動を快感と認知し、美しさを感じることができる人、ということになる。私の学生時代は単純な目標があった。コルビジエ、ミース、ニーマイヤー、丹下健三、白井晟一。しかしながら、自然の優しさが消え、人口が減少するこれらの時代には、今までと全く異なる新しい目標が必要になる。若い人、それは既成概念に囚われず、理想を追い求め続ける体力のある人のことのように思う。将来の建築を担う人々には、理想を追い求め、しっかりした知識を持ち、同じ志を持つ友人と思いをぶつけ合って成長して欲しいと強く思う。(学科主任)

平成29年度 卒業研究テーマ一覧

建築ゼミナールを受講する学生は、ここに記載されている卒業研究テーマを参照のうえ、所属する研究室を選択しましょう。

構造・材料系

■構 造

浅 里 和 茂 教授〔論文〕

堀 川 真 之 助教〔論文〕

鋼構造デザイン研究室

1. 応答解析による鉄骨大スパン架構の耐震補強に関する研究
2. 損傷や劣化を考慮したR C造建物の耐震性能評価に関する研究
3. 偏心ガセットプレートのディテール改修方法に関する研究
4. 鋼構造接合部のF E M解析による弾塑性挙動に関する研究
5. 福島県内公共建築物の耐震データベース作成に関する研究

G・ブントラ・ステンリー 教授〔論文〕

コンピュータシミュレーション応用力学研究室

1. 自然現象や生物の行動的なアルゴリズムを利用した建築構造物の最適化に関する研究
2. 無重力状態で自己釣り合い・自己展開できる建築構造物（テンセグリティ）の研究
3. 建築物と鋼管杭による大地震時の地盤沈下防止・液状化対策・免震効果の研究
4. 建築分野における傾斜機能材料に関する実験と解析的研究

千 葉 正 裕 教授〔論文〕

日比野 巧 助教〔論文〕

振動システム研究室

1. 耐震補強効果の評価手法に関する研究
2. 細長い平面形を有する建物の立体振動性状に関する研究
3. 建物の近似立体振動解析法に関する研究
4. 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測
5. 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究
6. 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究
7. 各種構造解析プログラムの開発

野 内 英 治 准教授〔論文〕

空間構造システム研究室

1. 空間構造に関する研究
2. 構造物の非線形解析に関する研究
3. 木質構造に関する研究
4. 構造物の崩壊解析に関する研究
5. 各種プログラミング言語を用いた構造解析ソフトウェアの開発
6. 耐震設計法に関する調査・研究

■材 料

出 村 克 宣 教授〔論文〕

齋 藤 俊 克 専任講師〔論文〕

建築材料学研究室

1. ポーラスコンクリートの性能評価
2. ポリマーセメントモルタルの性能評価法
3. 補修用ポリマーセメントモルタルの耐久性
4. 竹補強コンクリート・モルタルの開発
5. 鉄筋コンクリート構造物の補修システムの開発
6. 高耐久性塗料の性能評価

サンジェイ・パリーク 准教授〔論文〕

鉄筋コンクリート（R C）構造・材料研究室

1. 自己治癒・自己修復機能を有するコンクリートの開発
2. R C構造物の耐久性改善による長寿命化に関する研究
3. 建築材料の防火性能とその改良について研究
4. フライアッシュ・焼却灰（溶融スラグ）の土木・建築用コンクリート二次製品に再利用に関する研究開発
5. 放射能による汚染物格納のため超重量・遮蔽コンクリートの研究開発
6. ジオポリマー（セメント使用しない）コンクリートの開発
7. 高強度コンクリートおよび高強度鉄筋を用いたR C構造物の接合部の実験・解析に関する研究
8. インド住宅用の省エネ新構法や歴史的石造建造物調査・保存の研究

計画・環境系

■都市計画・設計

土 方 吉 雄 准教授〔論文・設計〕

都市計画第一研究室

1. 子どもの屋外遊び環境に関する研究
 2. 中心市街地のエリアマネジメントに関する研究
 3. まちなみ景観形成ルールの住民合意形成に関する研究
 4. 都市の土地利用コントロールに関する研究
 5. 震災復興まちづくりに関する研究
- 〔設計〕都市設計、地区設計、建築設計

■歴史・意匠

速 水 清 孝 教授〔論文・設計〕

山 岸 吉 弘 助教〔論文・設計〕

建築歴史意匠研究室

1. 建築・都市の歴史に関する研究
 2. 建築・町並みの保存と活用に関する研究
 3. 建築技術の歴史に関する研究
 4. 大工の技術と組織に関する研究
 5. 建築家の作家論に関する研究
 6. 建築技術者の人物史に関する研究
 7. 建築家を中心とする建築技術者の職能と法制に関する研究
- 〔設計〕持続可能な社会に向けた建築の提案、または「歴史」という発想を踏まえた建築や都市へのアプローチ

■建築計画・設計

鈴 木 晃 教授〔論文・設計〕

宮 崎 渉 助教〔論文・設計〕

福祉居住計画研究室

高齢社会に対応した居住に関する研究と計画

1. 日本の「バリアフリー」「ユニバーサル・デザイン」の概念
2. 介護保険の住宅改修
3. 加齢対応住宅の要件
4. 日本版C C R C（生涯活躍のまち）構想
5. 住宅内事故（転倒事故、入浴事故、熱中症など）
6. 高齢者の避難行動とまちづくりに関する研究
7. 農村住宅の快適性の評価

渡 部 和 生 特任教授〔設計〕

空間デザイン研究室

1. 近代建築の空間デザイン上の再考

2. 設計デザインのタイプ別考察
3. これからの現代建築の展開の考察
4. 実際の建物を見ながら空間デザインを確認する

浦 部 智 義 准教授〔論文・設計〕

建築計画研究室

1. 劇場・コンサートホールに関する多角的な研究
 2. 文化・医療など施設計画・評価に関する研究
 3. 農村舞台など地域資源の役割・活用に関する研究
 4. 建築・都市における空間知覚・認知に関する研究
 5. 二地域居住や中山間居住に関する研究
 6. 構法も含めた環境デザイン・パッシブ建築に関する研究
 7. 震災後の復興・復興住宅・まちづくりに関する研究
- 〔設計〕社会的効果・計画手法・空間演出など何らかの説得力のある提案

市 岡 綾 子 専任講師〔論文・設計〕

住環境計画研究室

1. 居住空間、住環境、子育て環境に関する研究
2. 学校施設、学習環境に関する研究
3. 子どもを中心とした環境行動に関する研究

4. 地域におけるまち資源の活用に関する研究
5. 震災後の居住環境・復興まちづくりに関する研究
6. 地域住民との協働によるまちづくりに関する研究

■環境工学・設備

濱 田 幸 雄 教授〔論文〕

環境工学研究室

1. 高機能遮音木床の開発
2. 風車音の測定法に関する研究
3. 風力発電施設からの騒音伝搬モデルの構築
4. 床衝撃音の評価方法に関する研究
5. 集合住宅の遮音性能水準に関する研究

森 山 修 治 教授〔論文・設計〕

環境設備・防災研究室

1. 病院や住宅の省エネルギーと災害時の生活継続計画の研究
2. 古民家や歴史的建造物の防災と保護に関する研究
3. 古民家の居住快適性に関する研究
4. 浜通り地域の津波避難計画に関する研究

アーキテクトコース見学会

建物の空間に触れながら課題に取り組む

3年次生 石 垣 一 尊

5月12日、連休明け最初の授業は設計課題である美術館・図書館の見学であった。郡山市中央図書館（設計：岡田新一、1981年開館）の見学で、まず印象的なのは建物の西側に位置する屋根付きスロープである。課題の敷地調査でも気になったが、公会堂との関係性を知ってからその意義を深く理解することができた。内部では一階の南のエントランスを入ってすぐの受付カウンターが気になった。カウンター内の職員用エレベーターは地下の事務所につながり、一般用エレベーターからは独立していた。また空調機の吹き出し口はルイス・カーンへのオマージュであることを知り、意匠的にも美しいと感じた。搬入口で驚いたのはその広さである。天井も高く、中型トラックの進入も可能であった。子供の図書スペースは、一般利用者に干渉しない位置にあることを知り、自分の設計においても配慮したいと思った。

次の郡山市立美術館（設計：柳澤孝彦／TAK建築・都市計画研究所、1992年開館）の見学では、そのアプローチが印象深い。敷地に入りすぐの階段を降りてキャノピーを進むと、美術館のおおよその全体像が見て取れる。美術館の外壁が大きなガラスのカーテンウォールであることに驚いた。

絵画などの展示物は陽の光に弱く、あの国立西洋美術

館でさえ開口部が少ないのに、全く正反対であった。学芸員の方から直接、現場の問題点について説明を伺うことができて非常に参考になった。特に美術館の搬入口は、図書館よりもデリケートなもので、美術品は決して外気に触れてはならない。搬入口の設計には十分考慮しようと思った。

今回の見学を通して実際の作品を体感し、図面や写真を眺めるだけでは分からない、さまざまなことを学ぶことができた。今後、自分の設計に生かしていきたいと考えている。



学芸員による機能性の説明

『ダイワロイネットホテル郡山新築工事』現場見学会に参加して

大学院博士前期課程2年 清水川 慶 堯

平成28年5月24日(火)、郡山駅前で今年12月の完成を目指して施工中の、「ダイワロイネットホテル郡山新築工事」(鉄骨造地上13階建、延べ面積約1万2千㎡)の現場見学会が行われました。

この建物は、駅前という立地もさることながら、東日本大震災で被災した旧丸井の建て替えとなるものであり、また、着工直後より巨大なタワークレーンで否応なく注目を集め、私自身、付近を通る度に気になっていた現場でした。

もっとも見学会自体は今回で3回目だそうで、最初は昨年の暮れ、基礎工事の頃、続いてこの春、地下の躯体が終わって建物が地上に現れた頃。そして、今回は鉄骨が最上階に及ぶ頃行われましたから、当初より参加する学生にとっては、1つの建物が出来上がる過程を継続して学べる機会となっています。

さて、見学会はまず、通りを挟んだ現場事務所で現在の工事の段階についてのご説明をいただいてから現場に向かう形で始まり、1分の1で造られていく建物のスケール感に気圧されながら仮囲いをくぐるや、建設に携わる職人の方々の熱気を目の当たりにすることになりました。

2階の朝礼会場にいったん集まった後、階段で一気に9階まで上がって、以後、降りながら所要所でクイズを絡めた講義を交えながらご説明いただきました。つまり、鉄骨の建て方が進む上の階から、建て方が終わって床にデッキプレートが敷かれた階、デッキプレートの上に鉄筋が組まれた階、それらがコンクリートが打たれて隠れ、外壁が取り付けられた階といったように、工事の進み具合が分かりやすいように順序立てて見せていただいたわけです。

授業でもこうした形で工事が進むことは教わります。

しかしまさに百聞は一見に如かずです。実務を知らない私達にも生のものづくりを肌で知ることが出来るのは、こうした見学会ならではのことと言えるでしょう。

ところで、しばしば「建設現場は汚く危険な場所」と言われます。その言葉を頭に置いて見学に臨んだ私は、この現場の整理整頓の行き届いた姿に目を見張りました。きっと、人通りの多い立地や、鉄骨造という構造の影響もあるでしょう。しかし、現場を管理する方々の安全で良質な現場づくりを求める姿勢に、現場で働く職人の方々の意識の高さが加わって可能となったものに違いありません。来春には現場マンとなる私にとって、このことは大いに考えさせられました。

見学後、再び事務所に戻って行われた工事経過の説明の中で登場されたのが、工学部OBの大城ラウルさん(環境工学研究室 平成27年度卒業生)でした。配属から2週間とは思えない堂々とした話し振りに社会人と学生の違いを感じる私達に、実はこの現場には大城さんばかりでなく、何名もの工学部OBがおられると教えられ、100万を超える本学OBの層の厚さを思わずにはいられませんでした。

個人的にも、就職活動の際、非常勤講師の倉持幸由先生をはじめ多くの本学OBにお世話になりました。全国各地、そして津々浦々におられるOBの方々は様々に私達を支えて下さる心強い存在であり、そのご活躍を間近に拝見する機会が現場見学会でもあるということを知れば実感させられたことありませんでした。

これからも完成までにまだ見学会は続くとうかがっています。楽しみにしつつ最後に、お忙しいなか開催にご尽力下さった方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



工事現場



床コンクリート打設前の9階にて説明を受ける



現場で活躍されている本学OBの大城ラウルさん(右端)

全国卒業設計コンクールに出展して

大学院博士前期課程1年 我妻 佑磨

私は本学大学院進学した後、平成27年度卒業設計作品をJIA東北学生卒業設計コンクール、レモン展（第39回学生設計優秀作品展）、JIA全国学生卒業設計コンクールに出展する機会を与えて頂きました。普段、見ることでできない他大学を代表した力作を間近に見て、自信を持ったり落胆したり多くの刺激を与えてもらいました。また、多くのコンクール審査員の先生方から、評価されたり厳しいご質問を頂いたり、自分に足りなかったものも含めて、今回の経験から考えさせられることも多くありました。自分の作品が様々な評価されることで、他大学の学生や一線で活躍する専門家との距離感をつかめたことが大きい収穫で、私は大学院修了後には建築デザインを仕事にできる職を目指したいと考えていますが、今後の進路を決定する際にも良い経験になったと思います。

一連のコンクールに出展された作品を自分なりに振り返ってみると、どの作品もコンセプト



JIA全国学生卒業設計コンクール
2016でのプレゼンの様子

が良いことは前提であり、そのテーマに建築で解決する試みのある提案が揃っているように思いました。その中で、出展作品が多くなると初期の審査では審査員が作品に触れる時間が限られるため、適切な模型のサイズ、プレゼンテーションボードの数を工夫して、口頭での説明も連動させて効率的に表現することが、大事だと再認識させられました。それは、基本的なことのようには思えますが、実践することは中々容易ではなく、普段からの練習、すなわち日頃からの積み重ねが大事だと思います。工学部での各課題におけるプレゼンテーションも、意識すると良い練習になることに今回改めて気が付き、学内の各課題でそれらを強く意識して取り組んでいなかった自分としては、もったいなかったと思いますので、これから卒業設計を目指す皆さんには意識してもらおうと良いかなと思います。

最後に、今回、賞を賜ったことのみならず今後に向けて多くの糧を手に入れることができましたが、それらは先生や先・同・後輩との充実した時間がないと成しえなかった事ですので、この場を借りて周囲の方々には感謝したいと思います。

参考URL：<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/success01/jia>
東北学生卒業設計コンクール2016優秀賞受賞

コンペに応募、そして工学部建築学科のプログラムを振り返る

稲山貴則建築設計事務所 羽根田 将 宏（H23年度 学部卒）

株式会社オンデザインパートナーズ 近 藤 拓 馬（H26年度 院修了）

この度、工学部を卒業・修了して間もない私たちが『「団地の未来建築プロジェクト 建築アイデアコンペティション—集会所」テーマ：集まって住む未来』で佳作を受賞したことから、今回、工学部での建築の学びを振り返りながら報告する機会を頂きました。異なる建築設計事務所で勤務する2人が協働し、結果はもとよりその作業も日常の仕事における新たな刺激にもなると思い個人的に応募したものです（したがって、2人とも所属はフリーランスで応募）。

コンペの課題は、横浜市内の団地内の集会所の改修提案を行うもので、私たちは、あらかじめ団地の中心に配置されつつも一般的に頻繁には利用されにくい「集会所」を、地域と絡めることでそのプログラムを再解釈すれば、新たな居場所としての可能性を提案できるのではと感じて応募しました。敷地が私たちの勤務地から近く現場を確認しやすいことから、私たちは、丁寧なリサーチから得られた地域の特徴を手がかりとした、計画・設計提案づくりに取り組むことができた、その結果、子育てを通して高齢者を含む地域住民の居場所として機能するような集会所を提案しました。

まさにこの視点こそ、工学部での設計教育や研究室活動などの学修経験に基づくものです。震災復興をはじめ様々な



提案した団地の集会所改修(俯瞰)

な地域・まちづくり活動など、リサーチやフィールドワーク（街歩きや地域住民へのヒアリングなど）をもとにした、地域に密着したソフトも含めた建築的提案の研究などを実践し、様々な研究室の卒研・卒計・修論の発表会等で学んだことが、私たちの提案を構築する非常に大きな手がかりになりました。つまり、地域と密着して社会の中の建築を意識した教育が、工学部を巣立った後の私たちの活動や仕事における考え方の基盤となっています。学生の皆さんには、私たちのように信頼できる仲間と共に、工学部建築学科の様々なプログラムに積極的に取り組んでください。その経験が卒業後にきっと良い経験として生きてくるはずです。

最後に、今回のコンペの2次（最終）審査は、応募総数148作品の中から選ばれた6作品であったため他作品のレベルが総合的に高く、審査員も委員長の隈研吾先生はじめ佐藤可士和・大月敏雄・藤本壮介先生など、錚々たる専門家の前でさすがに緊張しましたが、私たちにとっては当初の目的であった日常の仕事への刺激につながる良い経験になり、挑戦して良かったと実感しています。また、時間を見つけて別のコンペにも挑戦したいと思っています。学生を対象としたコンペも数多くありますので、皆さんも挑戦してみてください。

参考URL：<http://danchinomirai.com/compe/>（新建築2016年7月号24・25頁に掲載）*羽根田氏は応募時、株式会社日比野設計に所属



2次（最終）審査会場の
求道会館前にて
左：近藤氏・右：羽根田氏

新任の先生

助教 堀川 真之

担当科目：鉄筋コンクリート構造



今年度から、助教としてお世話になります堀川です。私は、日本大学にて修士課程を修了後、地方行政職員として住宅行政や建築行政に携わってきました。

今、全国の自治体が抱える鉄筋コンクリート造建物は膨大な数にのぼり、建物用途によっては、一斉に更新時期を迎えています。厳しい財政状況下では、全ての建物を建替えることは困難です。従って、優先順位をつけて効率的に建物の補修や補強を行い、長く使用していくことが求められています。また、超高層建物の老朽化対策も重要な課題です。建物形状に起因して、解体することが困難であるものと予想されます。

建物を長期的に使用するためには、時間経過と共に劣化する建物の性能を把握する必要があります。特に、地震国日本では、耐震性能の低下度合いを把握することが重要です。材料劣化と耐震性能の関係を明らかにし、構造の側面から、建物の寿命を適切に評価できる手法を開発することが当面の目標です。

授業では、鉄筋コンクリート構造ならびに設計法を中心に、構造系の授業を担当します。学生の皆さんが、日大工学部を卒業して良かったと思えるように、日々頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

非常勤講師 石田 壽一

担当科目：建築職業倫理特論



今年度から非常勤講師として、大学院の建築職業倫理特論を担当します石田です。現在、東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻に所属しており、主に都市デザインに関する研究・教育に携わっています。

建築に関わる職能倫理に関しては多くの文献が存在しますが、その起源となる建築理論書として、古代ローマの建築理論家、ヴィトルヴィウスの建築十書があります。ヴィトルヴィウスは、建築家が人工的に整備する都市環境や建築は、常に「用・強・美」という三つの理をバランス良く保つことが必要だと述べています。ここでいう「用 (utilitas)」とは快適で使い易い環境であり、「強 (firmitas)」とは堅牢で耐久性のある安全な構造であり、「美 (venustas)」とは機能的であるだけでなく、人々が誇れる公共性の高い秩序のある景観を創り出すことだと述べています。二千年も前に書かれたとは思えない現代性をこの説明に感じるのには私だけではないと思いますが、建築学は、古くから人々の個人の生活や集団としての活動に必要な最適環境を生み出す技術とデザインに関わる学問であり、その点からも職業倫理は重要な主題ですので、皆さんにも積極的に学んでもらいたいと思います。

助教 宮崎 渉

担当科目：建築企画・設計演習



本年4月に着任致しました宮崎渉と申します。私は日本大学大学院理工学研究科において博士課程後期を修了後、設計事務所に勤務しながら同大学理工学研究所の研究員をしてまいりました。

そこで行動科学を主軸に建築計画、都市環境計画に関する研究を行ってまいりました。特に高齢者・障害者・子どもの生活環境や行動を分析し、新たな知見を得ることで、良好な施設計画となるような研究を進めてきました。また、本年3月までの約7年間設計業務に従事し、住宅、事務所ビル、公共建築等の作品に携わってきました。みなさんに「建築」の楽しさや厳しさを伝えると同時に、興味や関心を今まで以上に持ってもらえるような授業を行っていきます。

最後に、私は以前より日本大学で研究教育活動を行うことにより、母校に貢献して行きたいと考えておりました。それは、学生時代に「建築」や「進路」に関し、多くのことを悩みながら学生生活を送っていた自身の経験を活かしたアドバイスをすることで、みなさんの将来の夢の実現を少しでもサポート出来ればと考えたからです。当時、悩み考えていたことを思い出しながら学生一人一人と向き合っていきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

非常勤講師 藤山 真美子

担当科目：インテリアデザイン



今年度より非常勤講師として、インテリアデザインを担当いたします藤山真美子です。大学院卒業後、住宅やクリニックをメインとする設計事務所に勤務しておりました。現在は、東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻に所属し、主にエネルギースマートな技術を建築や都市の新たな機能として実践するための実証研究を行っております。

昨今の大量情報化、技術革新社会の中で、建築や都市における諸条件を明示的に扱うデジタル化に対し、元来明示化できない質を空間の創造によって扱ってきた建築・都市デザインの役割が変容しつつあります。

まだ過渡的な状況ではありますが、設計実務の中でもエネルギーに関する諸設備やホームオートメーション技術など、日々更新される新技術を建築空間と統合的に扱う場面が増えています。さらにこれら新技術はIoTに代表されるように生活者の日常と多くの接点を持つ点で新たな展開であり、今後一層、建築・都市における人工環境の表層領域整備に関わる意匠理論や設計手法との統合化が求められると考えられます。歴史的実践に学びつつ、次世代のインテリアの展開を学生の皆様と考えていければと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

学 術 論 文

* 届け出があった記事を掲載

- ・齋藤俊克・出村克宣, 「ポーラスコンクリートの圧縮強度, 静弾性係数及び動弾性係数の関係」, セメント・コンクリート論文集, No.69, pp.251-256, March 2016.
- ・我喜屋宗満・齋藤俊克・出村克宣, 「竹補強材表面処理剤の種類が竹補強セメントモルタルの曲げ性状に及ぼす影響」, セメント・コンクリート論文集, No.69, pp.741-746, March 2016.
- ・齋藤俊克・出村克宣, 「複合則を適用したポーラスコンクリートの静弾性係数推定法の提案」, 日本建築学会構造系論文集, Vol.81, No.723, pp.825-832, May 2016.
- ・速水清孝, 「壽丸屋敷・笹森家住宅・一條旅館・玉幸」, 『宮城県文化財調査報告書 第242集 宮城県の近代和風建築調査報告書一宮城県近代和風建築総合調査報告書一』, 宮城県教育委員会, pp.42-43, p.66, pp.104-105, p.115, Mar. 2016
- ・速水清孝, 「『ビートルズハウス』の顛末記」『藤森先生 茶室指南』, 彰国社, pp.172-179, Mar. 2016
- ・浦部智義・渡邊洋一, 「福島県内に現存する地歌舞伎の運営に関する研究」, 日本建築学会技術報告集 第22巻51号, pp.711-716, June 2016
- ・S.A. Kristiawan, S. As'ad, Wibowo, B.S. Gan, D.P. Sitompul, Advances in Civil, Architectural, Structural and Constructional Engineering, Kim, Jung & Seo (Eds), Taylor & Francis Group, Chapter 6. Effect of high volume fly ash on the chloride penetration resistance of Self-Compacting Concrete (SCC), London, April 2016.
- ・HAN A., BUNTARA S. Gan, RUDI Y., ANASTASIA Y. and RAKHMAN E., Inclusion-to-specimen Volume Ratio Influence on the Strength and Stiffness Behaviors of Concrete: an Experimental Study, Applied Mechanics and Materials, Trans Tech Publications, Switzerland, pp.113-118, 2016.
- ・BUNTARA S. Gan, S. Nakamura, N. Sento and K. Ito, Friction-type Seismic Isolation Device of Steel Pile Foundation in Shaking Table Tests and Its Numerical Simulations, Applied Mechanics and Materials, Trans Tech Publications, Switzerland, pp.233-239, 2016
- ・五十嵐祐太・Sanjay PAREEK, 「フライアッシュおよび電気炉酸化スラグを使用したジオポリマーモルタルにおける高濃度塩酸溶液に対する抵抗性」, コンクリート工学年次論文集, Vol. 38 No.1, pp.2319-2324, July 2016
- ・上野拓・Sanjay PAREEK, 「超弾性合金の形状及び付着性状が及ぼすRC梁部材の繰返し載荷による変形回復能力及びひび割れの自己修復に関する研究」, コンクリート工学年次論文集, Vol. 38 No. 1, pp.1701-1706, July 2016
- ・高橋広大・Sanjay PAREEK, 「バサルト繊維補強モルタルの力学的特性に関する基礎的研究」, コンクリート工学年次論文集, Vol. 38 No. 1, pp.291-296, July 2016
- ・尾形雅人・Sanjay PAREEK, 「耐久性向上を目的としたコンクリート内部へのシランの高圧注入工法の開発」, コンクリート工学年次論文集, Vol. 38 No. 1, pp.1695-1700, July 2016
- ・五十嵐祐太・Sanjay PAREEK, 「フライアッシュおよび電気炉酸化スラグを使用したジオポリマーモルタルにおける高濃度塩酸溶液に対する抵抗性」, 「建設分野におけるジオポリマー技術の現状と課題」に関するシンポジウム, Vol. 1 No. 1, pp.81-86, June 2016

発 表 論 文

* 届け出があった記事を掲載

- 日本建築学会東北支部研究報告会 日時：平成28年6月18～19日 会場：東北大学工学部人間・環境系教育研究棟（仙台市）
- ・戦前のレーモンド事務所の設計スタッフと組織について ○速水清孝
 - ・建築技師・二本松孝蔵の経歴と「天野家住宅」について ○速水清孝・狩野勝重
 - ・福島県主要都市の防火建築帯造成に向けた動きについて ○清水川慶亮・速水清孝・山岸吉弘
 - ・バサルト繊維補強モルタルの力学的特性に関する基礎的研究 ○高橋広大・Sanjay PAREEK
 - ・超弾性合金の形状が及ぼすRC梁部材の繰返し載荷によるひび割れの自己修復に関する研究 ○上野拓・Sanjay PAREEK
 - ・ポリマーセメントモルタルの基礎的性質に及ぼす練混ぜ容量及び圧縮荷重速度の影響 ○我喜屋宗満・齋藤俊克・出村克宣
 - ・塩化イオン固定化材を用いた断面修復モルタルの遮塩性と防せい性 ○岡田明也・渡邊宗幸・齋藤俊克・出村克宣
 - ・フライアッシュおよび電気炉酸化スラグを使用したジオポリマーモルタルにおける高濃度塩酸溶液に対する抵抗性 ○五十嵐祐太・Sanjay PAREEK
 - ・東日本大震災における地域住民の津波避難行動に関する研究 ○三木彩恵子（早稲田大）・堀英祐・森山修治・長谷見雄二
 - ・東日本大震災における建物被害及び建物用途別特性の分析による津波避難ビルの適性に関する検討 ○深井萌子（早稲田大）・堀英祐・森山修治・長谷見雄二
- Central Europe towards Sustainable Building 2016, Innovations for sustainable future, 日時：平成28年6月22～24日 会場：Prague, Czech Republic.
- ・The Behavior of Functionally Graded Concrete and the Prospect of Material Optimization ○Aylin HAN, Buntara S.GAN, S.A.KRISTIAWAN, Thanh Huong TRINH

■土方准教授は、3月1日、南相馬市より、南相馬市都市計画マスタープランに係るアドバイザーを依頼された。

■土方准教授と浦部准教授は、3月11日、4月15日、6月20日、富岡町より、富岡町災害公営住宅整備事業（第1期分）配置計画に係る協議を依頼され、都市計画及び建築の専門的知見から指導された。

■市岡専任講師は、3月29日、福島県より、光り輝く商店街発掘・創出事業審査会委員を委嘱された。

■日本建築学会東北支部平成28年度役員に、代議員浅里教授、常議員野内准教授が当選された。

■市岡専任講師は、4月14日、福島県より、保健医療従事者養成施設基本設計・実施設計委託業務公募型プロポーザル審査会委員を委嘱された。

■我妻佑磨君（浦部研・M1）の卒業設計「絡まる建築―足元を固める―」が、4月16日、JIA東北学生卒業設計コンクールの優秀賞を受賞し、6月25日の全国学生卒業設計コンクールに出展した（p5参照）。

■浦部准教授は、4月25日、福島県郡山合

同庁舎整備基本計画策定業務公募型プロポーザル審査委員会委員を委嘱された。

■森山教授は、5月16日、日本火災学会研究発表会で「自力避難困難者の一時待避場所の安全性に関する研究」の梗概を発表された。

■浦部准教授は、5月19日、福島県水産試験研究拠点整備事業基本設計・実施設計委託業務公募型プロポーザル委員を委嘱された。

教室ニュース

■森山教授は、5月23日、11th Conference on Performance-Based Codes and Fire Safety Methods, Warsawにて、日本チームの一員としてCase Study of underground car parkの結果を報告された。

■パリーク准教授は、荒木慶一氏、大沼俊洋氏、貝沼亮介氏と連名で、建築雑誌2016年6月号に「構造材料の現在と未来をつなぐ―自己修復・形状記憶材料」と題して寄

稿された。

■森山教授は、6月9日、（一財）日本建築防災協会より、法適合に向けた既存建築物の防火改修の手法の検討委員会委員を委嘱され、副委員長に選出された。

■森山教授は、6月16日、消防庁予防課より、火災予防の実効性向上作業チームの委員に委嘱された。

■市岡専任講師は、6月27日、福島県より、東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設基本構想策定に係る検討会議委員を委嘱された。

■浦部准教授と浦部研究室が係わった、複合福祉施設ホームアグリケアガーデン・有床診療所メドアグリクリニックが、新建築7月号に掲載された。

■人事：4月1日付で、堀川真之助教と宮崎涉助教が着任された。また、本学科に永年勤務され、設計指導・教学と研究に活躍された三浦金作教授、湯本長伯教授が3月31日付けで定年退職された。また、大学院の講義をご担当されていた二瓶博厚非常勤講師が5月17日逝去された。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

建築学教室教職員名簿

平成28年7月1日現在

■専任教員

教授
--

■大学院：兼任教員・非常勤講師

兼担教授	根上	彰生	地域	計画	特論	45号館	3階	304	(956-8742)
非常勤講師	石田	壽一	建築	職業	倫理	16号館	3階	310	(956-8752)
非常勤講師	宇都宮	雅人	建築	職業	倫理	16号館	3階	310	(956-8752)
非常勤講師	熊倉	洋介	建築	設計	計画	9号館	3階	309	(956-8743)
非常勤講師	濱尾	博文	建築	構造	設計	16号館	1階	106	(956-8734)
非常勤講師	三浦	金作	都市	計画	特論	45号館	3階	304	(956-8742)
非常勤講師	米田	正彦	建築	職業	倫理	16号館	3階	310	(956-8752)

■学部：非常勤講師

非常勤講師	秋月	直道	建築	計画	設計	45号館	3階	301	(956-8750)
非常勤講師	阿部	直人	建築	計画	設計	45号館	3階	304	(956-8742)
非常勤講師	倉持	幸由	建築	施工	工	16号館	3階	309	(956-8730)
非常勤講師	近藤	道男	建築	設計	演習	9号館	3階	310	(956-8872)
非常勤講師	境	孝一	建築	施工	工	16号館	2階	206	(956-8735)
非常勤講師	佐久間	宏次	建築	設計	演習	45号館	3階	304	(956-8742)
非常勤講師	佐藤	英次	建築	構造	設計	16号館	2階	207	(956-8744)
非常勤講師	島田	マリ子	建築	設計	演習	45号館	3階	304	(956-8742)
非常勤講師	田中	雅美	建築	設計	演習	9号館	3階	310	(956-8872)
非常勤講師	寺嶋	守守	建築	設計	演習	45号館	3階	301	(956-8750)
非常勤講師	中尾	実宏	建築	情報	処理	45号館	3階	304	(956-8742)
非常勤講師	鍋田	知宏	建築	造形	演習	45号館	3階	305	(956-8746)
非常勤講師	原澤	一仁	建築	構造	設計	16号館	2階	207	(956-8744)
非常勤講師	檜山	延雄	建築	設計	演習	45号館	3階	301	(956-8750)
非常勤講師	平野	由朗	建築	設計	演習	9号館	3階	309	(956-8743)
非常勤講師	藤田	延幸	建築	設計	演習	45号館	3階	304	(956-8742)
非常勤講師	藤山	真美子	インテリア	デザイン	学	16号館	3階	310	(956-8752)
非常勤講師	古河	司一	特別	講義	学	16号館	3階	309	(956-8730)
非常勤講師	若井	正典	建築	人間	工	16号館	3階	310	(956-8752)
非常勤講師	渡澤	正典	建築	測量	演習	16号館	3階	309	(956-8730)
非常勤講師	渡邊	宏	建築	計画	設計	45号館	3階	301	(956-8750)

■事務職員

教室事務	小林	まゆみ	建築学科センター	16号館	3階	309	(956-8730)
------	----	-----	----------	------	----	-----	------------